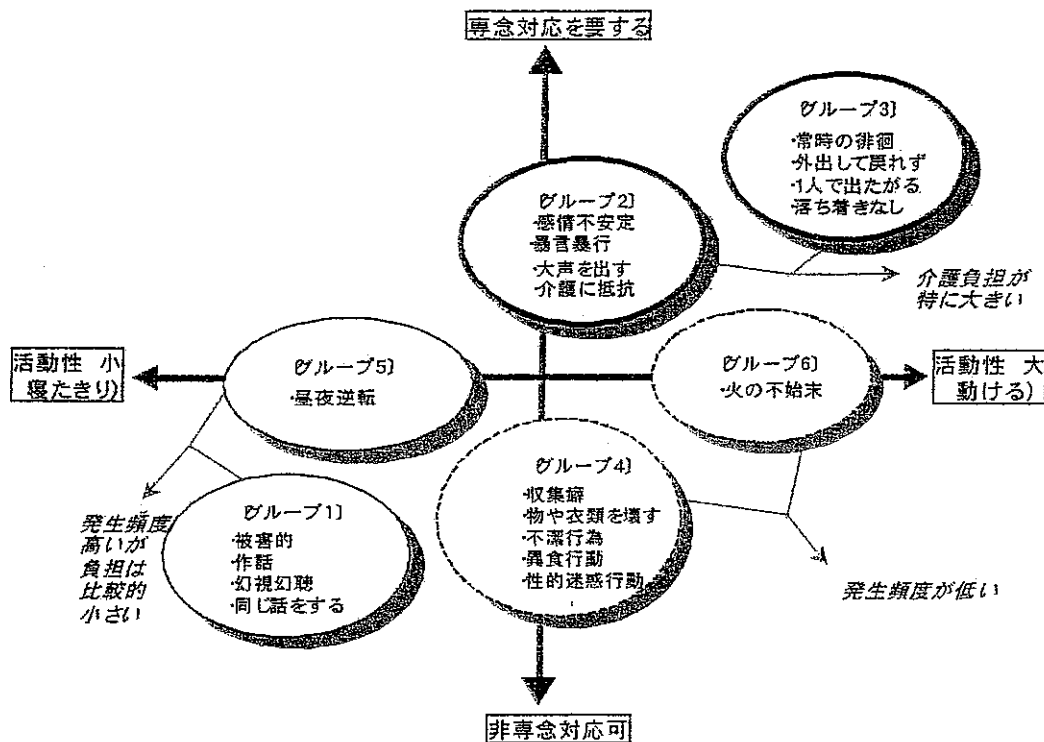


1478
合計 1478

図表 8. 問題行動のグルーピング概念図



※ 専念対応とは、介護者（家族）が患者者に対し、1対1の対応を行うことを意味する（負担大）。
非専念対応とは、他のことをしながらの対応（見守り等）を意味する。

ケア提供状況と患者特性の関係（まとめ）

- ① 患者特性によって変動するケア時間のうち、6～7割はADLケア時間であった。
- ② ADLケア時間は、寝たきり度が重くなるに従って、比例的に延長していたが、特に、Bランク以上で伸びが顕著であった。
- ③ 動ける方では、痴呆の程度が低い（Ⅱランク以下）とADLケア時間は短い、痴呆度Ⅲ以上になると、ADLケア時間が大幅に延長しており、動ける痴呆（寝たきり度A以下、痴呆度Ⅲ以上）の場合はケアの手間がかかっていることが示唆された。
- ④ その他の個別患者ケア時間（問題行動対応時間等）では、問題行動の頻度が高い場合や種類の異なる複数の問題行動がある場合にケアの手間がかかっていることが示唆された。
- ⑤ 問題行動は、発生頻度等の特徴から6つのグループに分類されたが、中でも特に、グループ2（介護に抵抗等）およびグループ3（常時の徘徊等）がケア時間に大きな影響を及ぼしていることが示唆された。